山里のくらし 紫の煙
増富の炭焼き

＜ますとみのすみやき＞

須玉 HITO 文庫

空の上にけむる山々
そこにはまっすぐな山々がつらなっていた

増富の炭焼き―山里のくらし、紫の煙―

目次

増富の炭焼き　7
山割りと山分け　10
白炭と黒炭　12
炭窯つくり　14
炭材の伐り出し　16
あらし　17
木ぞろえ　18
立て込み　19
火入れ　20
風をくれる　21
かき出し　22
俵に詰める　24
炭俵のしょい出し　26
資料編　29
道具　41
年中行事　44
参考文献　45
あとがき　46
須玉町全図　47
事務局より　48
英文紹介

[i] 発掘された窯跡（黒炭用）

古来より、須玉町内では炭焼きが
行なわれており、最近の発掘調査でも
古い窯跡が多く発見されてます。

特に増富地域では盛んに行なわれ、前の家でも、裏の家でもというように多くの人々がこの仕事に携わり、山腹からはいつも日に透けて紫色に澄みきった煙が立ち昇っていました。しかし、燃料革命[ii]に伴う時代の変遷により煙の数はだんだん少なくなり、昭和四十一年頃になるとほとんどその姿をみることはできなくなってしまいました。

先日[iii]、ビジターセンターに行ったとき、そこに展示されていた炭焼きの歴史を支えてきた諸道具を見て、炭焼きの仕事についてもっと知りたいと思い、真摯に炭焼きを生業として来られた増富の比志地区に住む丸山倉吉さんを訪ねました。

丸山さんは長年続けてきた炭焼きを昭和四十一年にやめ、名古屋より進出してきた工場に就職し、定年まで勤務されていたそうです。

以下に丸山さんに聞いた話の内容を記しました。

[i] 上屋敷遺跡（東向）
平成七年発掘調査

[ii] 昭和三十年前後に家庭用燃料が薪炭から石油系燃料にとって変わり、昭和四十年代には薪炭生産は急速に縮小していくことになる。

[iii] みずがき湖ビジターセンター
須玉町比志地区にあり、町の観光スポットや歴史・文化・産業などを紹介している。

須玉HITO文庫のHITOには単に人の意味だけでなく、「歴史に学び、明日を築く...」「HISTORY & TO MORROW」の頭2文字から合成しています。日常生活で見失いがちな地域の姿を経験や歴史から学び、より深い地域の理解から明日の地域づくりができないか、未来の須玉人に今、活字にして遺しておけないか、そんな思いが込められています。

手から手へ伝えられていく日本の伝統的な技は、技術の進歩や後継者の問題などから、次第に姿を消しつつあります。しかし、それは風化させてはいけない町の歴史であり、その技を書き留めておくことは、今を生きる私達の努めだとも思います。

そのような思いから、この小冊子では現在その効能が注目されている「炭」をとりあげました。紫の煙が立ちのぼる炭焼小屋のように失われつつある山里の風景を思い浮かべながらお読みください。

須玉町教育委員会　教育長　碓井正明

須玉HITO文庫　第5号
「山里のくらし、紫の煙　増富の炭焼き」
平成12年3月31日
発　行　須玉町教育委員会
〒408-0112　山梨県北巨摩郡須玉町若神子521-17
ＴＥＬ（0551）20-6111　ＦＡＸ（0551）20-6090

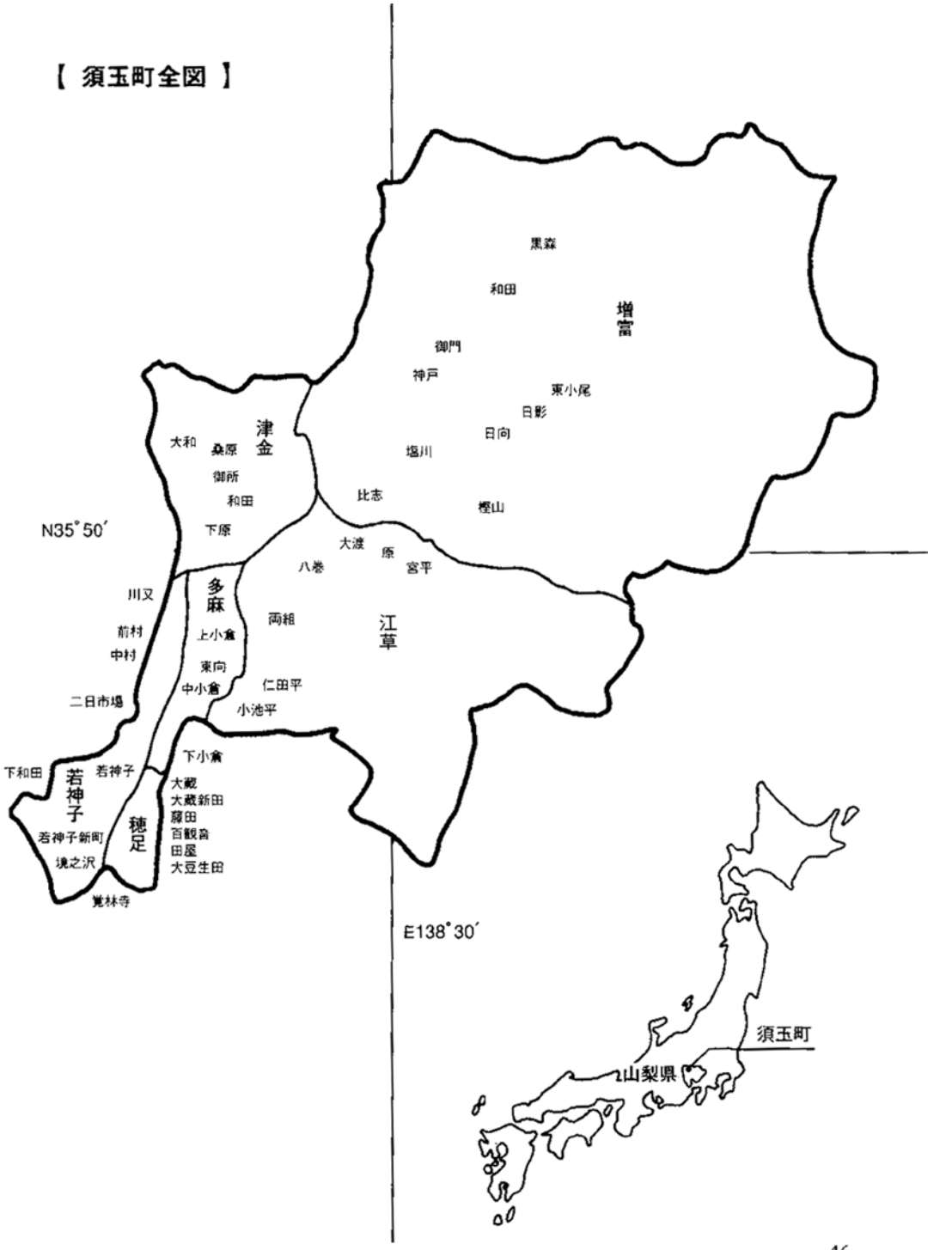
編　集　特定非営利活動法人　文化資源活用協会

原　稿　松林新一

資料提供　写真　P13,16,18,20,23,27－水上　章（昭和31年2月撮影）
P25－小林義家『遥かなる歴史』（1990）より
資料編図版　P30～39－堀内　真
『山梨県史民俗報告書　第一集』（1994）より

イラスト　内藤和子　花輪まゆ美　小野　妙

写　真　文化資源活用協会スタッフ

編集者　内藤和子　小野　妙

【 須玉町全図 】